

Ⅶ 宮崎県小・中学校特別支援教育と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

小・中特研部会

1 研究主題(テーマ)

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第1回全国理事研究・研修協議会並びに定期総会、第1回全国副会長研修会出席(6月4日5日)【東京都】
- ② 第1回事務局会(6月19日)
- ③ 第1回理事会(7月1日)
- ④ 第59回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会長崎大会(8月1日)
「各教科等の指導」で小林市立細野中学校教諭 曾木玲菜教諭が発表
- ⑤ 第49回九州地区難聴言語障害教育研究会熊本大会(8月7日)
日南市立南郷小学校教諭 上村聡子教諭が発表
- ⑥ 第64回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会(10月23日)
「通級指導」で西都市妻北小学校教諭 白水亜利沙教諭が発表
- ⑦ 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第3回全国理事研究・研修協議会、第3回全国副会長研修会出席(1月30日)【京都府】
- ⑧ 第2回事務局会(1月下旬)
- ⑨ 第2回理事会(2月26日)、研究集録「むすび」の発行(2月)
- ⑩ 監査(3月)

3 主な研究成果

(1) 成果

- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会長崎大会では、小林市立細野中学校曾木玲菜教諭が、九州地区難聴言語障害教育研究会熊本大会では、日南市立南郷小学校上村聡子教諭が、全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会では、西都市立妻北小学校白水亜利沙教諭が、それぞれ実践発表を行うことができた。各地区や部会において、熱心な協議、準備をしていただいた。
- 全特協に出席して、校長のマネジメントの視点、自立活動に関する研修ができた。内容の伝達を行いたい。
- 県教委から特別支援学級数等の情報をいただいたおかげで、数の確認がしやすかった。
- C4thにて「負担金振込確認書」を提出していただいたことで、納金済みの有無の確認が確実にできた。また、今年度は、手数料を間違えて振り込んでしまうことが1件もなかった。

(2) 課題

- 年度当初、各地区の役員の方に、名簿等の作成依頼の引き継ぎがうまく伝わっておらず、名簿、負担金明細書の確認がとても大変であった。5月中旬までに提出してもらえるようお願いしたい。
- 負担金納入にあたり、各地区の先生方から様々な質問があった。各地区で納入の仕方やお金を管理する部署が違うので、各地区での引き継ぎを確実に行ってもらえるよう、伝達したい。
- 各地区からの実践報告を「むすび」としてまとめているので、有効に活用してもらえるように、周知していく必要がある。

令和7年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

本年度は、6月と11月に部会を計画した。第1回はみなみのかぜ支援学校、第2回は清武せいりゅう支援学校を会場として実施した。両日とも、学校概要説明や学校見学を行った後、各校から出された課題に対する各校の取組状況の情報交換を行った。行事の精選や授業時数等の教育課程、各種様式や校務支援システムについての情報共有、ICTの活用、働き方改革などの意見交換を行うことができた。意見交換や情報共有を行うことで、今後の教育課程や取組の参考にすることができた。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会実施を計画した。研究テーマを「各校の生徒指導上の課題と対応策について」と設定し、第1回は6月に都城きりしま支援学校にて、対面形式で行った。部活動の在り方、校則の簡略化、危機管理等について情報交換を行った、第2回は1月末に、宮崎法務少年支援センターにて、窃盗や暴力・性加害等の累積や触法行為のある児童生徒の予防・予後教育、更生の支援プログラムの内容や学校との連携等についての研修を行い、困難案件等への対応力を高めていきたいと考えている。

(3) 保健主事・養護教諭部会

本年度は年2回の部会を計画し、第1回を7月29日(火)に延岡しろやま支援学校(事務局校)で実施した。情報交換では、熱中症対策、緊急時対応訓練、歯に関する指導、てんかん発作時の座薬の使用など、幅広い分野で各校の取り組みを共有し、意見交換を行うことができた。第2回の部会は2月19日(木)にオンラインで実施予定である。各学校の取組や成果、課題について、協議や意見交換を行いたい。

(4) 進路指導主事部会

本年度は年2回の部会を計画しており、「特別支援学校におけるキャリア教育の推進、その他進路指導に関する事項について協議する」ことを目的とした。部会は第1回を8月23日(金)に日向ひまわり支援学校で行い、昨年度卒業生の進路先についての報告と課題について協議し、キャリア・パスポートの進め方が報告された。第2回は2月下旬に今年度の卒業予定者の進路状況報告と、就労選択支援について情報共有を行う予定である。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

今年度は「幼児児童生徒の実態に合わせた、生きる力を育む食に関する指導のあり方」を研究テーマに掲げ、年2回の部会を計画した。第1回部会(6月12日、明星視覚支援学校)では、給食管理ソフトの活用について協議した。献立作成の精度向上と健康管理への寄与を目指した実効性の高い会となった。2月下旬の第2回部会では、ソフト活用のさらなる深掘りに加え、各校の課題や実践例を共有する予定である。今後も安心・安全な給食運営と食育の推進に向け、活発な部会運営を行っていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で23回を迎え、11月13日(木)から11月16日(日)まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催した。1836名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画237点、立体83点、書道17点、写真29点、合計366点となり、幼稚部、小学部、中学部、高等部総勢376名の出品者数となった。また、今年も12校によるコラボ企画として、高さ5m、幅8mの壁面全体を覆う大作を制作し、大変好評であった。

(7) 音楽科代表者部会

9月は児湯るびなす支援学校の授業提供と、「音楽を活用した自立活動の実践」の事例紹介があり、重度重複障がい児の児童生徒への支援のあり方について意見交換を行った。12月は日向ひまわり支援学校の授業提供と、音楽科の校内研究について紹介があり、同じ教材を使った小中高の系統的な指導の展開について意見交換を行った。また、部会の方向性や県高等学校教育研究会音楽部会との連携について協議を行い、懸案事項を確認できたことで、今後の取組の参考にすることができた。

(8) 保健体育科代表者部会

今年度は、6月と9月、1月の計3回部会を実施した。今年度から新たに発足した特別支援学校体育連盟の規約並びに事業計画を確認し、その運営や今後の在り方について継続的に協議した。また、部会研究内容を検討し、指導力向上を目的とした実技研修を実施した。さらに、学体研(延岡地区大会)に関わる説明・報告を行うとともに、各校が抱える保健・体育面の課題を共有し、改善に向けた意見交換を行った。

(9) 家庭科代表者部会

今年度も2回全体会を行った。8月5日(火)午前は、講師にジャパンホームベーキングスクール師範・野菜ソムリエである横山ルリ子氏を迎え、(株)宮崎ガスリビングクッキングスタジオを借用し調理実技講習会を行った。午後は部会運営や、特別支援学校児童生徒に対応した家庭科教育について話し合った。12月5日(金)午後、Zoomによるリモート会議を行い、食生活に関する授業・教材、及び時短・簡単料理レシピ紹介を行った。協議では今年度のまとめと来年度の研究テーマ等を確認した。

(10) 自立活動代表者部会

「障がいや特性に応じた効果的な支援や指導実践」を研究テーマとし、小林こすもす支援学校を会場校として、年2回の部会を実施した。第1回目は8月に対面で実施し、2名の講師を招聘して「障がいや特性に応じた効果的な支援や指導実践について」「自立活動について」の講義を受け、各学校の実情を踏まえて協議を行った。第2回目は12月にオンラインで実施し、各学校の「障がいや特性に応じた効果的な支援や指導実践」について事例報告を行い、情報共有と質疑応答にて学びを深めた。

(11) 情報教育代表者部会

6月20日(金)に第1回部会を対面で行った。各学校の情報教育の現状や課題、取組についての情報交換を行った。職員間のTeams活用や情報モラル教育、校務における生成AI(Canva、Gemini等)の利用と情報管理などをテーマに議論した。また、各校の事例研究では、「tetoru」アプリの運用状況や視線入力装置の活用事例、マニュアル化の工夫などが紹介され、活発な意見交換が行われた。対面の良さを生かした研修を行うことができた。第2回部会は、2月に対面で行う予定である。